

## 一 テーマ

児童・生徒一人ひとりが自己の高まりを実感できる国語教室  
 ～国語科としてのよりよい言語活動の充実を目指して～

## 二 テーマ設定の理由

本委員会ではこれまで、日常の授業改善や活性化を目指し、教育課程研究協議会の会場校の授業や各委員の実践について、意見交換や情報交換をすることで、国語科授業の在り方について学び合ってきた。

昨年までの取り組みを振り返り、改めて各委員が日々感じる国語授業における手応えや課題を話し合う中で、様々なニーズをもつ子どもたちを含めた全ての子どもたちが、主体的に学習に取り組み、自ら学ぶ意味を見出し、学んだことを実感できる国語授業を目指したいとの共通の願いが見えてきた。

そこで今年度も、子どもたちが主体的に教材と向き合い意欲的に学ぶ中で、自分の考えを見つめ、友の考えを知り自分の考えを深めていくことができる授業づくりに向け、日常の授業から様々な角度で広く学び合いたいと考え、本テーマを継続して設定した。

## 三 研究の経過

年度当初に日々の国語授業の手応えや課題を情報交換する中で、本年度は特に、「資質・能力の育成につながるICT活用」、さらに新学習指導要領でも大事にされている「自身の学びや変容を自覚し、次の学習につなげる振り返り活動の充実」が大きな話題となった。これらのことをお互いの授業実践や子どもたちの具体の姿から学び合ってきた。

期日	内容 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報交換の内容</span>	場所
5月7日 第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画作成</li> <li>・日々の国語授業についての情報交換</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     新学習指導要領について ICT活用について 漢字指導について                      振り返り活動について 特別な支援を要する子への支援について                      3観点学習評価について など                 </div>	教育会館
6月18日 第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教育課程会場校事前授業参観、研究会</li> <li>・日々の国語授業についての情報交換</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     ICT活用について クロームブック・ジャムボードの活用について                 </div>	川辺小学校
7月16日 第3回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教育課程会場校事前授業の報告会、研究会</li> <li>・日々の国語授業についての情報交換</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     中学校における「話す・聞く」単元の授業展開について                      ICT活用について 振り返り活動について                 </div>	清明小学校
11月29日 第4回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育会総委員会</li> <li>・研究のまとめ、情報交換</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     資質・能力の育成につながるICT活用について                      学習課題について 振り返り活動について ジャムボードについて                      ICT活用における課題について                 </div>	清明小学校
12月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究発表リハーサル</li> </ul>	清明小学校

第5回委員会		
1月18日	・研究発表	教育会館
第6回委員会	・本年度のまとめ	

#### 四 研究内容

##### 1 川辺小学校の実践から

##### (1) 研究の概要

##### ○全校研究テーマ

一人ひとりの子どもの「よさ」に目を向け、学びを深めていく授業  
～教師のまなざしに視点を当てて～

私たちは、子どもの「よさ」をどのようにとらえているのか。子どもの「学び」をどのようにとらえながら日々の授業づくりに取り組んでいるのか。子どもと学びの時を共にする教師の思いを語り合い、その思いに寄り添いながら、互いの子どもに寄せるまなざしを見つめ返していきたい。

##### 【国語科テーマ】

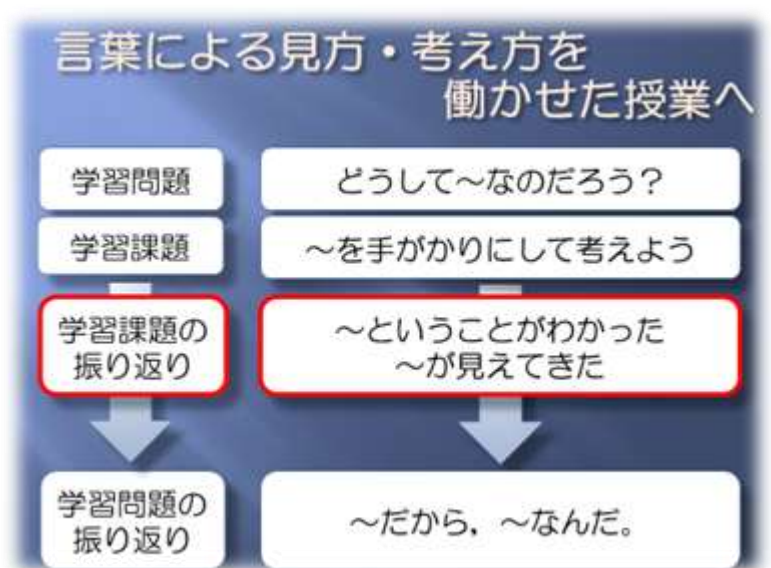
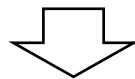
言葉を豊かにしていく子ども  
～言葉による見方・考え方を働かせる授業をめざして～

・小学校学習指導要領（国語科）の目標に立ち返り、1学期の授業を振り返ってみたとき、「言葉による見方・考え方を働かせることが国語科で育成を目指す資質・能力をよりよく身につけることにつながる」と記されているが、そこに対する意識が薄かった私たち。

→「言葉による見方・考え方」、また、「言葉による見方・考え方を働かせること」について学び、どのような見方・考え方を働かせながら課題を追究していくのかを明確にした授業づくりへ。そのために「学習課題の振り返り」を意識、充実した授業へ。

・これまで、子どもたちから生まれた学習問題に対し、子どもたちと共に学習課題を作り、展開してきた授業。その中で学習課題を解決させてきたが、「何がわかってきたのか」「どのようなことが見えてきたのか」の共有が曖昧だった。

→何を手掛かりに何を追究してきたのか、つまり、「どのような見方・考え方で追究し、何が見えてきたのか」を子どもたちと明らかにしていく授業づくりを重ねていくことで、子どもたちが「その見方・考え方」を働かせる“よさ”に触れ、いずれは自分たちで



その「見方・考え方」を自在に働かせることができるようになるのではないか。

(2) 題材構想

【題材名】表現の工夫に着目して読み、日本文化を紹介するパンフレットを書く『鳥獣戯画』を読む

【単元の目標】

- ①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしようとしている。 [知識及び技能] (1)オ
- ②筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。 [思考力・判断力・表現力等] B(1)イ
- ③引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力・判断力・表現力等] B(1)エ
- ④目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力・判断力・表現力等] C(1)ウ
- ⑤進んで、表現の工夫とその効果もつよさを認識しようとしているとともに、学習の見通しを持って表現の工夫を生かしてパンフレットを書こうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

【働かせる見方・考え方】

読む活動：筆者の『鳥獣戯画』に対する解釈や作中に表されている表現に注目し、筆者の主張や思いと表現の効果を結び付けること。

書く活動：自分が表したい日本文化を選び、集めた材料と文章全体の構成、展開とを結び付け、適宜図表等を用いながら自分の思いが伝わるように明確に書き表すこと。

【評価規準】

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしようとしている。(1)オ	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している(B(1)エ) ③「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)	①進んで、表現の工夫やその効果を理解し、語彙を豊かにしようとしているとともに、学習の見通しを持って表現の工夫を生かしてパンフレットを書こうとしている。

【学習展開と評価の流れ】

①既習単元とのつながり

読む	『時計の時間と心の時間』 - 本文の言葉を手がかりに、筆者の考えに気づき、筆者の考えが生活のどのような場面で見られるかについて自分の生活の中から具体例的な場面を紹介し合った。 『森へ』 - 森でのこわさがすっかり消えたのはどうしてか作者の森での様々な出会いを手がかりに、友と意見を交流しながら自分の考えを持
----	--

	った。
書く	『私たちにできること』 - 学校生活にある様々な問題を自ら見出し、解決策について情報を集め、自分の考えをポスターの形で表した。

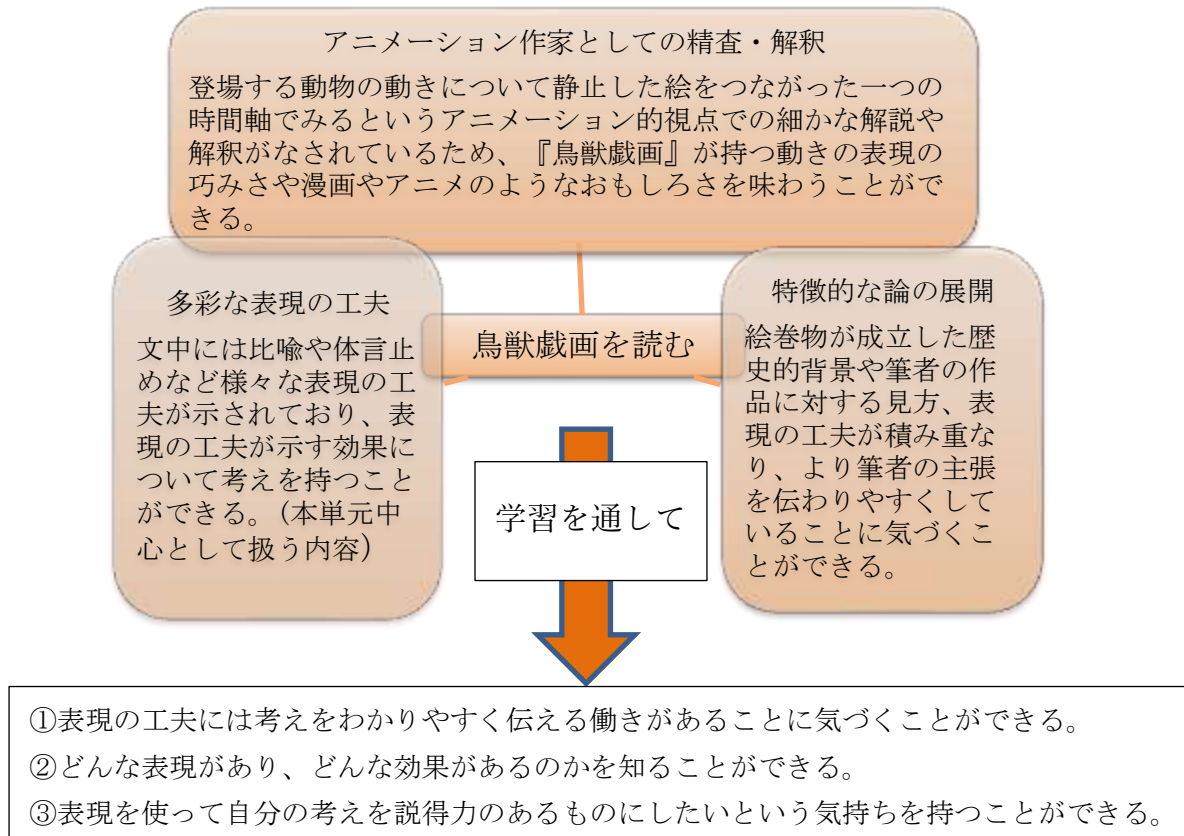
②本時の学習展開と評価の計画

時間	学習活動	留意点	評価
1	○通読し、『鳥獣戯画』は人類の宝であるという筆者の考えを捉え、どのようにしたら自分の考えが分かりやすく伝わるかを考える。	<u>学習活動の見通しを持つ</u> ・感じた疑問も書くようにする。 ・作者の高畑勲さんの経歴や作品を教師の方から紹介する。 ・表現の工夫に着目できるように、どのような工夫をすれば、自分の考えが伝わるか意見を出し合う。	[思考・判断・表現③] <u>ワークシート</u> ・筆者の主張とそれをわかりやすく伝えるための <u>表現の工夫とを結びつけて考えることができるかの確認</u>
2 3 (本時)	○筆者が考えをわかりやすくするために、どのような表現の工夫をしているか、自分の考えを持ち、共有する。	<u>特徴的な表現に着目する</u> ・Chromebookに本文を示し、表現の工夫が表されていると考える言葉に付箋を貼れるようにする。	[知識・技能①] <u>Chromebook</u> ・本文中に示された表現の工夫に気付いているかの確認
4	○ここまでの学習を振り返り、『鳥獣戯画』に見られる表現の工夫や論の展開、挿絵の使い方の良さなどから効果的だと思うことをまとめ、考えを伝え合う。	<u>学習をまとめ、共有する。</u> ・本文をインターネット上で共有し、自分が効果的だと思う所に付箋を貼れるようにする。	[思考・判断・表現③] <u>ワークシート</u> ・効果的だと思う表現の工夫や論の展開、挿絵の使い方をまとめられているかの確認
5	○私たちににとって発信したい日本文化はなにかを考え、題材を決める。	<u>学習活動の見通しを持つ</u> ・日本文化について調べ、意見を出し合い、共有する。 ・自分が伝えたい日本文化を選ぶ。	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>ワークシート</u> ・日本文化について伝えるパンフレットを作るという見通しをもって、題材を決めているかの確認
6 7	○題材について、くわしく調べ、情報を集め、書く内容について見通しを持って、パンフレットの下書きを書く。	<u>自分の書く内容を捉える</u> ・適宜、学校図書館やChromebookを利用する。 ・知ってもらいたい内容に合わせて、パンフレットの構成を考え、割り付けごとに下書きを書けるようにする。	[思考・判断・表現] ① <u>Chromebookを用いたパンフレットの下書き</u> ・筋道の通った文章になっているかの確認

8 9 10	○集めた情報をもとに一人ひとりパンフレット作りに取り組む。	<u>考えを形成する</u> ・Chromebook を使い、構成を考え、書く。	〔思考・判断・表現〕② <u>Chromebook を用いたパンフレット</u> ・考えを伝えるために表し方を工夫しているかの確認
11	○完成したパンフレットをお互いに見合い、感想を書き、合わせて自分はどうのような工夫や願いを持って書いたのか自らの学びを振り返る。	<u>共有し、学びを振り返る。</u> ・お互いの作品を見合う。 ・友の作品を見たうえで、自分の作品の工夫したところを振り返ることができるようにする。	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>振り返りの記述</u> ・試行錯誤しながら書き表し方を工夫しているかの確認

【単元に関わる教材研究】

本単元の概要（素材の特徴）



※作品中の表現の工夫に関わる教材研究については別紙にて示す。

### (3) 単元と子どもたち



本学級の子どもたちは「伝え合い」ということを大切に国語の学習に取り組んできた。自らが考えた意見を伝えること、また友が話す言葉を受け止め、自分の考えとの差異を比べ、考えを広げていく姿がたくさん見られる。

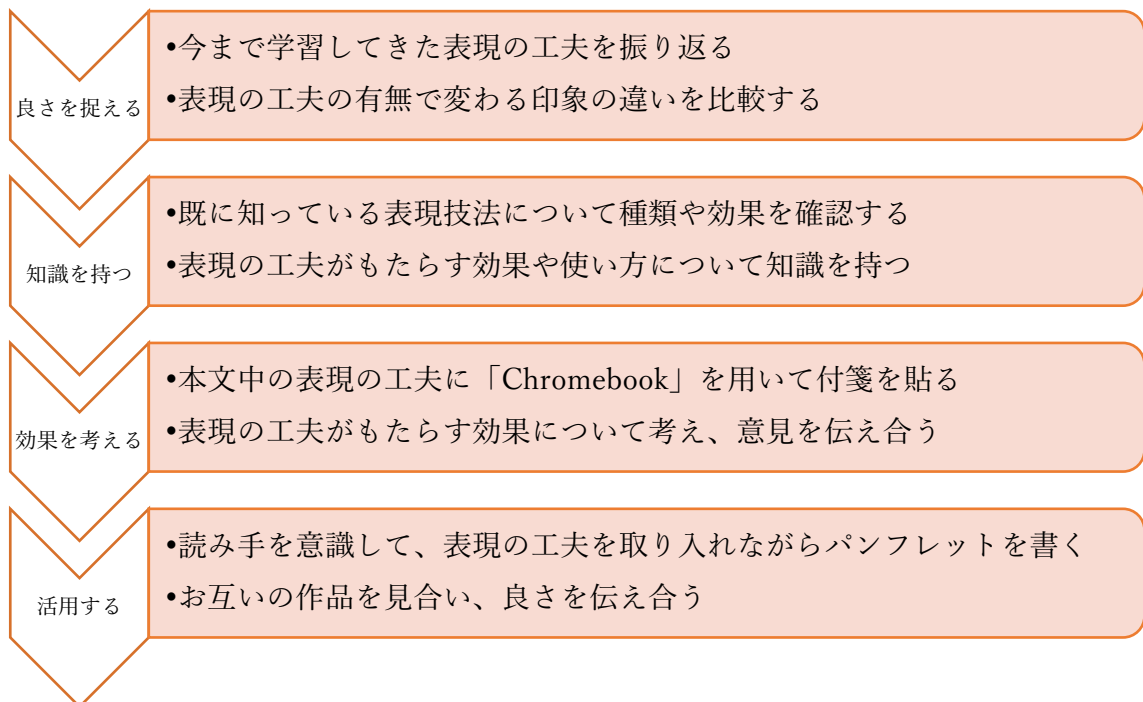
前単元『森へ』において、「作者のこわさがすっかり消えたのはどうしてか」という問いを考えた場面。TS 児は問いに対する自分の考えを書いた後、意見交流の時間に多数の友の意見に耳を傾け、自分になかった考えについてメモを取る姿が見られた。

木々が支え合って森が成り立つことに注目していた NA 児は、自分の考えに WM 児の「作者の様々な森の中での発見がこわさを薄れさせていった」という考えを付け加え、自分の考えを広げようとする姿があった。これらのように伝え合う中で、考えが広がっていくことを経験知として得てきた子どもたちの姿がある。

であるからこそ、本単元では「表現の工夫」というところを学びの中心に据え、表現の工夫をうまく取り入れることで、わかりやすく自分の考えを伝えることにつながるということを味わってほしい。そのために、表現の工夫を使ってわかりやすく自分の考えを伝えたいという思いを持てるようにしていくことを大切に授業を構想する。

### (4) 本単元における問題解決の過程

本単元では、教材が持つ特徴を生かし、「表現の工夫」という点に着目して学習する。子どもたちが、表現の工夫を使うことで自分の考えがより分かりやすく伝わることに気づき、書く活動に活用したいという気持ちを持てるよう以下のように留意する。



(5) 本時案

令和3年9月3日(金)

授業学級：6年2組(男子18名 女子13名 計31名)

① 題材名 「表現の工夫に着目して読み、日本文化を紹介するパンフレットを書く『鳥獣戯画を読む』」

② 本時の学習計画 11時間中の第3時

前時：『鳥獣戯画』を通して、筆者が伝えたいことを読み取り、筆者が持つ『鳥獣戯画』に対する評価について考えを持つ。

次時：『鳥獣戯画』に対する筆者の見方をまとめ、自分の感想を伝え合う。

③ 学習の主眼

『鳥獣戯画』に対する筆者の評価について自分の考えを持った子どもたちが、筆者が自分の考えを伝えるためにどのような表現の工夫をしているのかを考え、友と意見を共有することを通して、筆者がたくさんの表現の工夫を用いて『鳥獣戯画』の世界を解釈・評価していることに気づき、筆者の『鳥獣戯画』に対する見方や考え方とそれを分かりやすく伝えるための表現の工夫について結び付け、表現の工夫がもたらす効果について自分の考えを持つことができる。

④ 学習の展開

過程	学 習 活 動	予想される子どもの動き	時間	指 導 と 支 援
課題把握	1 前時までの活動を振り返る。	<p>----- 学習問題 -----</p> <p>筆者は自分の考えを伝えるためにどのような工夫をしているだろう。</p> <p>・動物の動きを細かく説明しているね ○表現の工夫がたくさんあるよ。</p>	5'	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返り、今まで考えてきたことを確認する。</li> <li>文中の表現の工夫がいくつか確認できたところで、学習課題を提示する。</li> <li>既習済みの表現の工夫について板書を提示する。</li> <li>グループごとに活動できるように机等を移動する。</li> </ul>
展開	2 文中の表現の工夫に chromebook を用いて付箋を付ける。 (グループ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>体言止めが使われているね。 ○短文や強調も表現の工夫だといえるね。</li> <li>体言止めからどんなことが読み手に伝わるのだろう。</li> </ul>	10'	<ul style="list-style-type: none"> <li>Chromebook の使い方を確認し、書く内容を共有する。</li> <li>適宜貼った付箋をグループ内で見合う。</li> <li>○表現の工夫がない文章を提示し、比較するように促す。</li> <li>活動に進めない児童には、友の付箋を見せ、興味を持った意見を再度個別で確認したり、教師</li> </ul>
	3 表現の工夫が持つ効果について考えを伝え合う。 (グループ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>強調表現がたくさんあるから、ここは特に伝えたいのかな ○表現の工夫があることで、意識してほしい部分が伝わるね。</li> <li>表現の工夫を使うことで、兎や蛙の動きが生き生きとしたも</li> </ul>	20'	



<p>終末</p>	<p>4 表現の工夫が持つ効果をまとめ、本時の学習を振り返る。</p>	<p>のにしようとしているのかな。          ○ 作者は体言止めや強調を使って、動物の動きをより分かりやすく、イメージしやすいようにしているんだな。</p>	<p>10'</p>	<p>と一緒に音読み表現の工夫に着目したりできるようにする。          ○ 表現の工夫がもたらす効果について考えを google フォームにまとめる。          ・まとめた考えをスプレッドシートにて共有し、お互いの考えを見合えるようにする。</p>
-----------	-------------------------------------	--	------------	--

⑤ 評価 筆者の『鳥獣戯画』に対する見方や考え方とそれを分かりやすく伝えるための表現の工夫についてを結び付け、表現の工夫がもたらす効果について自分の考えを持つことができたかを google フォームにまとめた内容や付箋をもとに評価する。

## 2 塩田中学校の実践から

### (1) 研究の要旨

教科書が一新され、光村図書の教科書1から3年生までの共通する内容として、「聞き上手になろう」という聞き手に焦点を置く単元が新設された。本単元では、質問の種類や順序に関する知識・技能と、インタビューの中で相手の思いを引き出すために話の展開に注意して質問の仕方を工夫する思考・判断・表現の力の育成をねらって設定した。「今夢中になっていること」を話題として思いを引き出すインタビューを行った。

授業を構想しながら「話すこと聞くこと」の領域の中で生徒の付けるべき力と「教師が生徒の学びを見届けるにはどうすればよいか」に焦点を当てた。

本単元の中で教科書に示された内容から、やり方を工夫した点は以下の二点である。

①教師によるモデルのインタビュー映像を用いる。

②一回のインタビュー毎にグループで振り返りの時間を設ける。

①について インタビュー映像から質問の仕方の工夫に気づくことで、インタビューの中で意識する点が明確になることをねらった。

②について 一回ごとに振り返りを設けたことは、肯定的なやり取りから質問をすることへの自信につながったり、質問の語彙を獲得したりすることをねらった。

しかし以下のような生徒の躓きや授業の難しさが見られた。

- ・質問の言葉・語彙が少なく、言葉に詰まった。
- ・話題そのものに質問を繰り返す、思いを引き出す質問ができない。
- ・グループでの振り返りで何を振り返ればよいかわからず、録画を視聴することに終始したり表面的なことしか振り返られなかったりした。

→個人の振り返りの記述に繋がらず、学びを深めたのか、教師が見届けられない。

そこで授業の課題に以下のように手立てを工夫した。

①教科書に載っている質問を一覧にした質問帳を配布する。

②インタビューの目的と教科書にある質問例から思いや考えを問う質問を確認する。

③聴衆が聞き手の質問を全てメモし、思いが引き出せた質問について振り返られるようにする。

④実際のセリフを使って、質問の良さや改善点について個人の感想を書く。



## (2) 単元設定の理由

前単元「魅力的な提案をしよう」～プレゼンテーション～の構成を考える場面で、「魅力があるのがいいから、一個目を問いにした。その方が聞いている人が考えたりできるからいいと思った。」や「一番最初に『人の集中力はどのくらい続くのか』を入れていたけど、話に惹きつけられないんじゃないかということで、二番目にしました。」「僕は初めに朝に勉強することを推していたけれど、『朝部活の人はどうするのか』という意見で、確かにそうだと思う。けれどその意見から、なら短時間でできる勉強法を説明するという方針になった。」のように、聞き手がどんな点に興味をもちそうか、どんな状況や立場かを想定しながら、構成を考える姿があった。また、発表を聞き終えた振り返りで、「意外にも聞いている側になると、なかなか魅力的にやるのは難しいなあと感じました。わかりやすくても発見、驚きが無いとか、図表とかがあっても声がよく聞こえないとか、あまり上手くいかないなあと思いました。」や「実証実験などの結果のグラフや表をスライドで示すときは、実験を行った人や会社の名前が書かれていると、書かれていないスライドよりも説得力が上がると思った。」のように、発表を聞き手がどのような気持ちで聞きそうか、どのように理解していくかを考えていく記述があった。

一方で、相手の提案を全面的に受け入れる傾向が強い生徒が多く、相手の発表に対して疑問をもつ感想はわずかであった。批判的に相手の話を受け止める生徒が少ないことがあげられる。また、発表後に相互評価する場面では、他のグループの評価数値はほぼ横並びであった。こうした相互評価の様子から、グループ同士を比較しながらよりよいものを追究する力の育成が必要だと考えた。

教科書が一新され、光村図書教科書1から3年生までの共通する内容として、「聞き上手になろう」という聞き手に焦点を置く単元が新設された。『光村図書中学校国語学習指導書1上』には、

「聞くこと」の指導は「しっかり聞く」態度と「要点」の聞き取り、そのための「メモ」以上には、具体的な指導がなされていないことさえあるのではないか。その背景には、対話を主導するのは話し手で、聞き手は「受け手」として従の立場とみる我々の意識があるように思われる。

とある。従来いずれの学年でも聞き手のみに焦点を置いた単元は教科書には示されてこなかった。しかし質問で相手の話や思いを引き出す能力は、私たちの生活の様々な場面で必要とされる能力である。また日常の会話でも聞き手の質問によって話題が広がったり深まったりすることもしばしば目にする。

そこで、相手をより理解しようと自ら行動できる聞き手の力の育成を目指した「聞き上手になろう」の単元を構想した。本単元は、聞き手がインタビューという形で話し手の話題に対して質問を重ねていく単元である。テーマを「今、夢中になっていること」、目的を「思いあふれるインタビュー記事を作成する」に設定した。思いや考えがあふれる記事作りを目的にすることで、インタビューの際には事前に用意した質問をただ行うのではなく、相手の話を踏まえて質問を重ねたり、自分の考えと比較して質問を考えたりする必要があるだろう。このことから「相手の思いや考えをより深く引き出せるように、話の展開に注意して質問の仕方を工夫したり、自分の考えと比較したりして聞く力」を育成できると考えた。

## (3) 単元の目標

- ①言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくこと。 【言葉・漢字(1)ア】
- ②論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

③言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

## (4) 単元展開

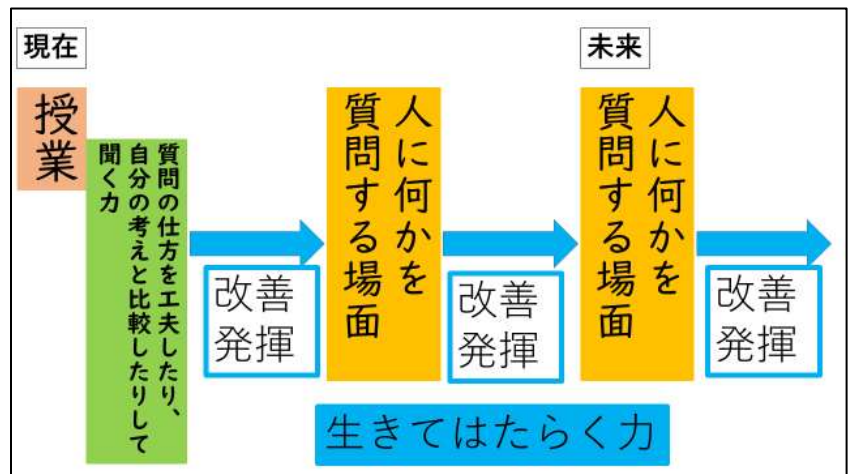
段階	学習活動	指導	評価規準	時
第一 次	1. 単元の目的・目標を確認して、見通しをもつ。	目的：インタビュー記事を作成する。 テーマ：今、夢中になっていること。 目標：思いや考えを引き出す質問ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問の種類によって得られる情報量や答えやすさに違いがあることに気づき、質問の順序を工夫しようとしている。</li> <li>・相手の思いや考えを引き出すために、話の展開に注意して質問を工夫することができる。</li> <li>・思いや考えを引き出すために、粘り強く質問を重ね、よりよい質問方法について振り返ろうとしている。</li> </ul>	1
	2. 閉じた質問と開いた質問の違いを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉じた質問と開いた質問を比べて、答えやすさや答えの情報量の違いに気づかせる。</li> </ul>		1
	3. 練習用のテーマで質問の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ「もしペットを飼うなら」</li> <li>・質問の種類の違いによる、得られる情報量や答えやすさ、組み合わせを意識して質問を繰り返す。</li> </ul>		
	4. モデルのインタビュー映像を視聴する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話したことを引用して質問したり、自分の考えと比べたりしながら質問していることを確認する。</li> </ul>		1 ～ 2
	5. インタビューの準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4人グループで、聞き手・話し手・聴衆の三役を決める</li> <li>・テーマに沿って、話題と特に話したいことを決め、話題は簡潔に聞き手に伝える。</li> <li>・話題が決まらない生徒に、部活動や趣味から決めるように支援する。</li> </ul>		
	6. インタビューをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問を考えることができない生徒には、モデルのインタビュー映像でしていた質問を参考にするよう助言する。</li> <li>・インタビュー5分、振り返り8分とし、時間の管理は教師が行う。</li> <li>・聞き手のChromebookを使って録画する。</li> </ul>		
	7. インタビューの振り返りをする。 (本時インタビューを1人のみ行う)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いや考えを引き出した瞬間や、インタビューの仕方の良かったことについて話しをする。</li> <li>・思いや考えを引き出せた質問の仕方や、改善点を振り返りとして書けるよ</li> </ul>		
	8. 単元を振り返る。			

		うにする。 グループの全員がインタビューをする * 6.7を繰り返す		
第二 次	9. ミニインタビュー 記事を作成する。	・ 前時の映像を見返す。 ・ 100～200 文字程度でインタビュー の内容を Forms に入力する。	・ 読み手に伝わるよう に、インタビュー内容を 整理してまとめることが できる。	1

(5) 本単元で付ける力とその評価について考察

本単元において、評価をどのように行うかが課題であった。本単元は思いを引き出す聞き手に焦点を置いている。仮に思いをたくさん引き出せたとしても、たまたま話題との相性が良く上手くいった可能性があり、インタビューの相手が話し上手な話し手であった可能性もある。そこで話題や話し手に左右されない評価の観点が必要であった。また、教室の各所で行われている複数のインタビュー全ての様子を観察で評価することは困難である。そこで本単元では学習プリントの振り返りを主な評価材料とすることにした。

この単元で生徒に付けたい力は、「質問の仕方を工夫したり、自分の考えと比較したりして聞く力」である。これは生徒が将来やってくる「人に何質問する場面」において発揮されたり、相手をより理解するために自分の質問を改善したりできる「生きてはたらく力」でなくてはならない。自分の聞き方を改善していくためには、質問の善し悪しを判断できるよう



になる必要がある。振り返りが「思いをたくさん引き出せて良かった」では、どうして思いを引き出せたのかに注目できているとは言えない。そこで、生徒には実際にインタビューで使われたセリフを使って振り返りを記入するよう助言した。実際のセリフにどんな工夫がされ、その工夫の良さや改善点を振り返りに記入することができれば、質問を改善できる力を伸ばしたと評価することができると考えた。

※実際のセリフを意識させたことによる振り返りの変化は後述。

〈授業記録とその考察〉

○導入

・ 手立て：モデルインタビュー（2分）

教師 M(司会)：インタビューを行います。話し手は T 先生です。聞き手は O 先生です。ではお願いします。

教師 O(聞き手)：T 先生の今夢中になっていることは「断捨離」だそうですが、「断捨離」とはどういうことですか。

教師 T(話し手)：物を捨てまくるということですね。

教師 O：それは、普通のゴミ捨てとは違うのですか？

教師 T：全然違うと思います。ただいらぬ物を捨てるのではなくて、私の思う断捨離は生活を豊かにするために物を減らすっていうのが断捨離じゃないかなと思います。

教師 O：生活を……。物を手放すっていうのは、持っている物がなくなるわけだから、豊かさとは離れちゃう気がするのですが、例えば今まで断捨離した物では、どんなものを捨てたのですか。

教師 T：一番は洋服。あとは、大学時代のノートとかプリントとか、4年間もらった物を全て取っていたのですが、それを全て処分しました。

教師 O：先ほど「豊かさ」が得られると言っていたじゃないですか、洋服とかノートとかを捨てたことによって T 先生が得られた豊かさって何ですか。

教師 T：例えば洋服だったら、「時間」が得られたかなと思っています。

教師 O：もう少し詳しく教えてください。

教師 T：洋服がいっぱいあるとー

字幕：「インタビューはまだ続きますが、気づいたことを書きなさい。」

・授業導入

【学習問題】 思いや考えを引き出すにはどのように質問したらよいだろうか。

〈モデルインタビュー視聴〉

T 1：では、インタビューの工夫について気付いたことを教えてください。

A 生：「自分の考えはこうだけど、あなたの考えはどうですか」と聞いている。

T 2：そうですね。映像の中で「自分は豊かさとは離れちゃうと思うんですけど～」や「ゴミ捨てとは違うんですか？」みたいに自分の考えと比較して質問を作っていました。

T 3：続いてどんな工夫をしていましたか？

B 生：もう少し詳しくしてほしいところについて、聞いていました。

T 4：詳しくって言うけど、何について聞いてた？

B 生：洋服とかについて。

T 5：そうだね。洋服とか、話し手の言葉の中から「豊かさ」や「時間」について、「時間が得られたということについてもう少し詳しく教えてください」みたいに、相手の言葉からこれもっと深めたいと思う内容について質問していました。

T 6：相手の言葉を使うことを引用っていうのだけど、これも大事な観点です。

T 7：今日はこの二つを使ってインタビューをしていきましょう。

【学習課題提示】

自分の考えと比較したり、相手の言葉から深めたい内容を見つけたりして質問を重ねよう。

・導入の考察

前時に、閉じた質問と開いた質問の種類について学んではいるものの、聞き方を意識してインタビューをすることは本時が初めてである。インタビューの様子とその際の聞き方の見通しをもてるように教師によるモデル映像を示した。A 生や B 生の様に「自分の考えを言っている」や「相手の答えをさらに深く掘り下げている」と聞き方の工夫として記述している生徒が見られた。また、学習課題として取り上げた工夫以外にも「前提を確認していたこと」に気づく生徒や『例えば～』『詳しく教えてください』などの具体的な質問のセリフを記述する生徒も見られ、教師によるモデル映像は聞き方の工夫に気づいたり、具体的な質問を獲得したりすることにおいて有効に働いたと考えられる。

○展開：生徒のインタビュー

・1回目のインタビュー

生徒のインタビューは当初、思いを引き出すという目標から離れてしまい、話題そのものについて質問していた生徒が何人も見られた。「今、夢中になっていること：バスケットボール」である話し手に対して「バスケットボールではどんなボールを使うのですか。」や「何か特別な靴を使うのですか。」といった競技そのものへの質問が重ねられ、話し手のバスケットボールへの思いをなかなか引き出すことができなかった。

・1回目の振り返り

C生：一回聞いて満足するのではなく、まだ深く掘り下げられそうなところはどんどん質問していったらいいと思った。

D生：私が聞き手の時は質問が止まってしまい、もっと自然に普通に話すようにすればよかったと思いました。

本単元において、生徒が学びを自覚したり、教師が生徒の学びを見届けたりする意味でも振り返りの書かせ方は非常に重要である。ただ学習課題にある言葉を使って、「比較や引用を使ったら上手くいった」と振り返っても、その生徒が比較や引用をすることの効果について本当に実感できているのか、実際に授業の中で使えていたのかがわからず、教師が評価できないという問題があった。上に示したC生やD生の振り返りは、どう質問すれば深く掘り下げたり、自然に会話する様なインタビューになったりするのが書かれていない。これでは考えや学びを評価することができない。これは、グループや個人の振り返りをするまでに、インタビューの時の質問を覚えていないことに原因があると考えた。こうした生徒の躓きから、以下の手立てをうっていった。

一つ目は話し手の思いを引き出すことを教科書の質問を確認しながら意識づけた。二つ目は聴衆に質問の全てをプリント裏面にメモすることを助言したことである。これらを元に振り返り際には、「実際のセリフを使って振り返りを書くこと」と「その質問の良さや改善点について触れて書くこと」の二点を更に意識するよう促した。すると、使うべき質問が精選されたのか相手の思いに迫っていく生徒の姿が見られた。

・2回目以降のインタビュー

テーマ（今夢中になっていること）：スポーツ

E生（聞き手）：何のスポーツが好きですか

F生（話し手）：テニスです

E生：そのスポーツの好きな点を教えてください

F生：えー試合とかに出るんですけど、二人で協力して勝てた時の達成感が好きです。

E生：テニスの練習はたくさんしていますか

F生：週2，3回ぐらい

E生：テニスをいつごろから好きになりましたか。

F生：中1の後半くらいからはまって、好きになって。

E生：大会で優勝したことはありますか。

F生：優勝はないんですけど、一步手前で優勝を逃してしまったことはたくさんあります。

E生：やっていてよかったことは何ですか。

F生：さっきも言ったんですけど、二人で協力して得る達成感が好きです。

E生：・・・(沈黙)

教師：「達成感」って言葉が出てきていたよ。それについて聞いたら？

E生：どういうことに達成感を感じるんですか

F生：大会で上位に入れることが…あ、練習を沢山するにつれて、練習量にあった順位がついてくるので、自分で言うのもあれだけど、頑張ったなあって思える時です。

いくつかの手立てをうってきたが、上に示したように一つ一つの質問が単発になってしまうインタビューも中にはあった。学習課題の比較や引用を用いて、会話するように質問を重ねられる生徒ばかりではなかったというのが実態であった。

引用や比較といった工夫を知っていても、それを生徒がどの言葉に着目して使えばよいのかわからなかったことに原因があるように思われる。授業者が助言したとは言え、N生は「達成感」というS生の言葉に注目する事で質問を続けたり、思いに迫ったりすることができた。具体的な場面が出てきたら思いを直接聞いたり、「好き」「楽しい」などの思いを表す言葉が出てきたら、具体的な状況を聞いたりするなど、注目すべき言葉やタイミングを生徒に示すことで、比較や引用をする効果をより実感させることができたのではないだろうか。

#### ・グループでのインタビューの振り返りの様子

初め、グループでの振り返りは、自分たちのインタビューの動画を見る事に終始してしまい質問の仕方の良さや改善点を振り返る状況になかった。2回目以降のインタビューで行われた聴衆の質問メモがグループの振り返りに大きな変化をもたらし、メモした質問を指さしながら質問の良さや改善点について話し出す様子が見られた。E生とF生の班での振り返り際には、「達成感について聞かれた時、私すごい話してたよね」と振り返るF生や、「この『優勝を一步手前で逃した』について、原因を聞くこともできたんじゃない」と考える班員もいた。こうした発言は、相手から出た言葉を引用して質問を重ねることで、より深い思いを引き出せることを学んだと考える。また、個人の振り返りにも聴衆に質問のメモを促したことは大きな効果があった。

#### ・2回目の振り返り

C生：Oさんが「ドクターストーン(漫画)のどんなところが好き？」と聞いて、「科学」と返ってきたあと「科学を使うシーンでどんな場面が好き？」と聞いていて、科学と聞いて終わらずに科学のシーンを深く掘っていていいと思いました。

D生：話し手が「忙しくて大変だけど～」みたいな事を言っていたので、「忙しいと自分は嫌になってしまうのですが、どこが面白いのですか」という質問が、(自分の考えと比較したことで) 自然な流れで思いを引き出せていたと思った。

G生：Dさんの「私はキャンプの準備が大変だと嫌になってしまうのですが、どこが楽しいのですか」という質問が良かったと思う。なぜなら、Dさんのイメージが話し手にも知ることができて、話しやすかったからです。  
(※下線部：評価できるポイント)

二回目の振り返りでは、C生もD生も実際のセリフを使って振り返りを行うことが出来た。C生は引用の工夫を用いた質問について注目し、そうすることで深く掘り下げるインタビューができることを実感することができた。またD生は比較を用いた質問に注目し、そうすることで自然な流れで話せ



るという効果を自覚できたと言えるだろう。また、G生のように引用は聞き手の話題に対するイメージや理解度を話し手が理解した上で次の話をするができる良さに気づく生徒も見られた。上記で示した振り返りは本単元でねらった生徒の姿として評価できると考える。

#### (6) まとめ

「話すこと・聞くこと」の領域は「書くこと」「読むこと」の領域に授業数が圧迫されがちだが、質問する力のように生徒の実生活と密に関係している。聞き手として、相手を理解しようと相手の話を踏まえて質問したり、自分の考えと比較して質問したりできる様になってほしいという願いから、「実際のセリフを使ってその質問の良さに気づくことができる」という終末の生徒の姿を目指し単元を工夫した。

本単元は聞き手に焦点を当てた新しい単元であったが、具体的な言葉に注目する点では、他の領域や単元と共通であったと感じる。「読むこと」の領域では、本文の言葉に着目して考えを形成していく。「書くこと」の領域では、目的に応じて書き方などの構成や集めた情報の良し悪しに着目して文章を作り上げていく。いずれの領域も、目の前にある具体的な言葉に着目する。「話すこと・聞くこと」の本単元はインタビューで使われた実際のセリフを用いて、その工夫と効果に注目するよう促した。するとA生やD生、G生のように質問の良さに注目できるようになった生徒が見られた。「話すこと・聞くこと」の領域はインタビューやプレゼンテーションのように活動自体が形に残らないものが多い。しかし、具体的な言葉に着目するという国語の特徴は変わらないと改めて感じた。

本単元は今年初めて実施される単元であり課題も多い授業であると思う。しかし、終末の生徒の姿に向けて生徒の躰きから手立てをうったことで、自分なりの願いをもってインタビューを改善させ、生き生きと活動する姿が見られた。生徒の可能性の大きさに改めて気づかされた。

聞き手としての力は一朝一夕で習得できるものではない。以降の単元でも継続的に質問する場面を考えていきたい。

### 五 研究のまとめと課題

各委員の実践上の課題や手ごたえを情報交換したり、教育課程会場校の授業を参観したりする中で、国語授業改善に向けて学び合うことができた。その中で、本年度大きく話題となった2点についての成果と課題を以下にまとめる。

#### (1) 資質・能力の育成につながる ICT 活用

ICT を活用することで、自分や他者の考えが可視化、焦点化されたり、それらを瞬時に共有したりすることで子どもたちの学びが深まっていく子どもたちの具体の姿を見ることができた。ICT の活用によって、活動への見通しがもて学習に主体的に取り組めるようになっていたり、自分や友達の考えが瞬時に可視化されることで対話へのきっかけになったりすることで自らの学びを深めていく姿が見られた。Google jamboard に教科書の本文を張り付けて共同編集していく国語科ならではの使い方も学ぶことができた。一方で、授業のねらいに向けてどの場面でどのように活用していくのかを考えるのは難しいという一人一台端末の導入期ならではの意見も多く出された。学校間の枠を超えて先進的な取り組みに学べる本委員会の今後の課題にしたい。

#### (2) 自身の学びや変容を自覚し、次の学習につなげる振り返り活動の充実

子どもたち自身が学習の見通しをもてる場を設定すること、そして何を振り返るのか振り返りの観点を明確にすることで、子どもたち自身が学んだことを自覚していく具体の姿を見ることができた。



子どもが自らの学びについて何をどのように学ぶかを見通しがもてる導入の工夫や授業や単元の終末に子どもが自らの学びを自覚するために何をどのように振り返るのかを明確にする重要性を改めて感じることができた。これらのことを学習指導要領で示されているように「計画的に取り入れる」ことについて今後も研究を深めていきたい。